

ほっこり ウィークリー

(毎週金曜日発行)

62号
2021
8.6

京都府立植物園

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町
TEL 075-701-0141 FAX 075-701-0142
<http://www.pref.kyoto.jp/plant/>

園内で野鳥の死骸を発見されましたら、鳥インフルエンザの疑いもありますので絶対に触らずに職員や各門へお知らせください。



行事予定と今週ぜひ観ていただきたい植物の情報をお届けします！

※休園日は、年末年始(12/28~1/4)だけです。

※ 京都府立植物園公式ツイッターアカウント始めました！見頃の植物情報を中心につぶやいています。



夏の早朝開園

○7月22日(木祝)~8月15日(日)

* 7:30から開園します

★涼しい早朝の植物園をお楽しみください!!

第30回 食虫植物展

○期間: 7月22日(木祝)~8月9日(月休)

○場所: 観覧温室(特別展示室)

○内容: ウツボカズラ、サラセニアなど100種類150鉢を展示(販売: 22日13:00~、23日~25日)

◆食虫植物観察会(小学生以下対象)

○期間: 7月26日(月)~8月9日(月休)
11:00~11:30

○場所: 観覧温室(特別展示室)

○内容: 小学生以下を対象とした食虫植物の観察会

第5回 帰化植物展

○期間: 8月6日(金)~8月15日(日)

○場所: 植物園会館1階展示室

○内容: 「帰化植物の履歴書」
帰化植物の写真展示、解説文のパネル及び切花(生物教育会採集品)等の展示

◆帰化植物展関連観察会

○日程: 8月8日(日) 13:30~15:00(受付13:00~)

○場所: 植物園会館2階研修室及び園内

○内容: 「帰化植物を観察しよう」
帰化植物についての説明及び生育地での観察

○講師: 京都府生物教育会 西村 元氏

○定員: 先着30名

♪ 夏休み子ども向け(食虫植物の展示)

○期間: 8月10日(火)~8月31日(火)

○場所: 観覧温室

○内容: 食虫植物展終了後も、食虫植物を展示します!

♪ 第60回 植物学習相談会

○日程: 8月14日(土)

【午前の部】9:00~12:00

【午後の部】13:00~16:00

○場所: 植物園会館2階研修室

○内容: 児童生徒が作成した標本など、植物に関する作品の仕上げ方等の指導及び相談

🌿 芦生の森を未来につなぐために

○期間: 8月20日(金)~8月29日(日) 10:00~16:00

○場所: 【絵画展】植物園会館1階展示室

【写真展】植物園会館2階多目的室

○内容: 京都大学芦生研究林内の風景や植物などの絵画及び写真を展示

◆芦生の森を未来につなぐために 公開講演会

○日程: 8月29日(日) 13:30~16:30

○場所: 京都学・歴史館大ホール *定員: 先着200名

○内容: 芦生の天然林の希少性を伝えるとともに、芦生の森を守るための活動事例を紹介し、植物及び環境の保全意識の醸成を図る講演会(事前申込み)



🍀 「土曜ミニミニガイド」 技術課職員が植物解説!

毎週土曜日は・・・

植物園会館前集合: 午後1時スタート!



「植物園ガイド」が植物案内!

~見どころ案内・魅力解説・楽しさ倍増!~

- ① 7名以上のグループや団体で来園される方を対象
- ② 申込は希望日の10日前までに。(要相談)
- ③ ガイドは1時間程度。(無料)

* 申込先: 京都府立植物園 TEL 075-701-0141

植物園芸相談

■ 毎週 日曜日 午前9時~正午、午後1時~午後4時

■ 電話075-701-0141



スマホdeガイド



QRコードをスマホで読み込み、「位置情報を利用する」に設定!

京都府立大学との共同により、スマホを使って園内の自分の位置が確認できる『スマホdeガイド』を作成! 「おすすめ樹木めぐり」 「おすすめエリアガイド」などをスマホで確認し、植物観察!

※年間パスポート好評発売中

・1年間、何度でもご利用いただけるお得なチケットです!

大人1000円 高校生750円

・入園門でご購入いただけますので是非お買い求めください。

※温室観覧料は別途必要となります。

植物園HP!



🍁 「水曜ミニガイド」 植物園認定が 仆がご案内!

※当面の間 水曜ミニガイドは中止させていただきます。

🍁 「園長と園内散歩」

8月22日(日) 何処を歩くかはお楽しみ!

植物園会館前集合: 午後2時スタート!

今週の「探して！」
2021. 8. 6
62号

⑫ マンゴー

ウルシ科。北部インド～マレーシアに分布。インドでは4000年以上前から栽培が始まっており、仏教の経典にもその名が見られる。現在では500以上の品種が栽培されている。インド・メキシコ・フィリピン・タイ・オーストラリア・台湾が主産国。

⑪ サルスベリ

ミソハギ科。中国南部原産。樹皮がはがれたすべすべした幹肌で、「木登りの得意な猿でも滑って登れない」という和名の由来となった。別名の百日紅のとおり、花木の少ない夏の時期から秋口まで長期間にわたって花を付ける。

⑩ ハエトリグサ

モウセンゴケ科。北アメリカのノースカロライナ州、サウスカロライナ州に分布する食虫植物。左右の葉の内側に感覚毛が3本ずつあり、2回以上触れると瞬時に葉を閉じる。風雨などの誤作動を防ぐため、1回の接触だけでは葉は閉じない。

⑨ 変化アサガオ

ヒルガオ科。アサガオの突然変異した種類を選んで交配させ、花と葉の形の珍しさを観賞。江戸時代から現代に受け継がれている伝統園芸植物。多くは遺伝的に弱いため維持・保存が困難だが、愛好家などによって継承されている。

① ジュラシック・ツリー

ナンヨウスギ科。1994年にオーストラリアのウォレマイ国立公園内の溪谷で発見。世界的には英名の「Wollemi Pine (ウォレマイ・パイン)」と呼ばれる。最も古い化石は約2億年前のもので、現存する最古の種子植物とされる。

② センニチコウ

ヒユ科。熱帯アメリカ原産。日本には江戸時代に渡来。「千日紅」と書き、その名は花の色が長期間あせない性質に由来。京都の秋祭りの先陣を切って行われる「ずいき祭」では、野菜や穀物と一緒にみこしの装飾の一つとして欠かせない。

③ ヒョウタン

ウリ科。アフリカ原産。かんぴょうの原料であるユウガオの仲間。日本での栽培は古く「日本書紀」にも登場する。乾燥させた果実を水筒などの容器に使うなど、人々の生活との関わりは深い。丸いものや細長いものなど形状は様々である。

④ ホップ

アサ科。ヨーロッパから西アジアに分布。つる性の多年草。雌雄異株で雌花は「毬花」と呼ばれビールの主要な原料の一つである。ビールの苦味、香り、泡にとって極めて重要で、雑菌の繁殖を抑え、ビールの保存性を高める働きがある。

⑤ モミジアオイ

アオイ科。北アメリカ東南部原産。葉が指を開いた手のひらのような形でモミジに似ていることが、和名の由来。花は朝に開いてその日の夕方にはしぼんでしまい短命だが、葉の付け根に次々とつぼみを付け連続して咲き続ける。

⑥ レンゲショウマ

キンポウゲ科。本州の主に太平洋側の暖温帯地域に分布する日本固有の植物。花姿がハス(蓮華)に、葉がサラシナショウマに似ることから名前が付いた。ガクは薄紫色で平らに咲き、本物の花弁は抱えるように咲く。1属1種。

⑦ オニブキ

ゲンネラ科。ブラジル南東部のセーハ・ド・マール山脈に自生。葉柄の長さが1m以上、葉の直径が大きなものでは2m近く、草丈3mほどになり、「地上で最も巨大な葉を持つ植物」と称して、大阪花博などで日本に紹介された。

⑧ メランポディウム

キク科。メキシコを中心に分布。メランポディウムはギリシャ語の「melas(黒い)」と「podium(足)」が語源で、地際の茎、または根の部分が黒い種類があることに由来するとされる。暑さに非常に強いことが特徴で夏の花壇に最適。

